

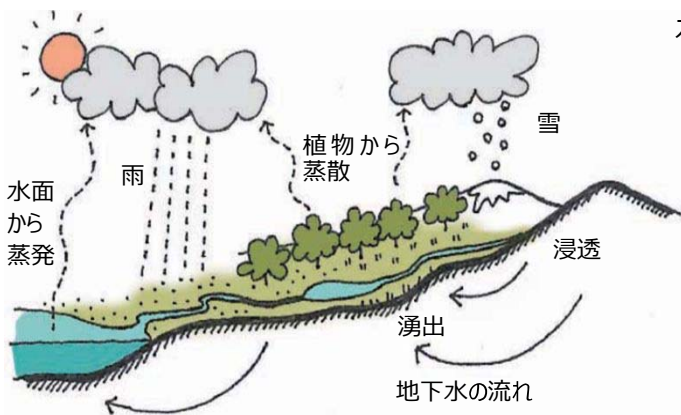
『水の環復活 2050 なごや戦略』 第2期実行計画について

名古屋市では、都市化にともない健全な水循環が損なわれたことによって、さまざまな問題が生じています。人の活動との調和を考えながら水循環の機能を回復し、『豊かな水の環（わ）がささえる「環境首都なごや」の実現』をめざすために、平成21年3月に『水の環復活 2050 なごや戦略』を策定しました。

このたび、戦略における第1期実行計画の成果についてとりまとめるとともに、第2期実行計画を策定しました。



「水循環の機能」とは？



水は、自然の状態では左図のように循環しています。
水の循環が良くなることで、さまざまな効果が期待できます。

＜水循環の代表的な機能＞

- 降った雨が地面にしみこんだり（浸透）、地表のくぼみなどに蓄えられたりする（貯留）ことで、水害を起こりにくする。
- しみこんだ雨が地中をゆっくり流れ、やがてきれいな湧き水となることで、雨がしばらく降らなくても河川やため池の水量を保つ。
- 水面や緑などから水が蒸発するとき、気化熱によって周辺と比べて涼しく感じることができる。



「水の環復活」とは？

水 水循環を良い状態にすることは、わたしたちにとって持続可能で快適な環境づくりにつながることであり、
緑 人や生き物にとって豊かな環境をつくることと表裏一体の関係です。

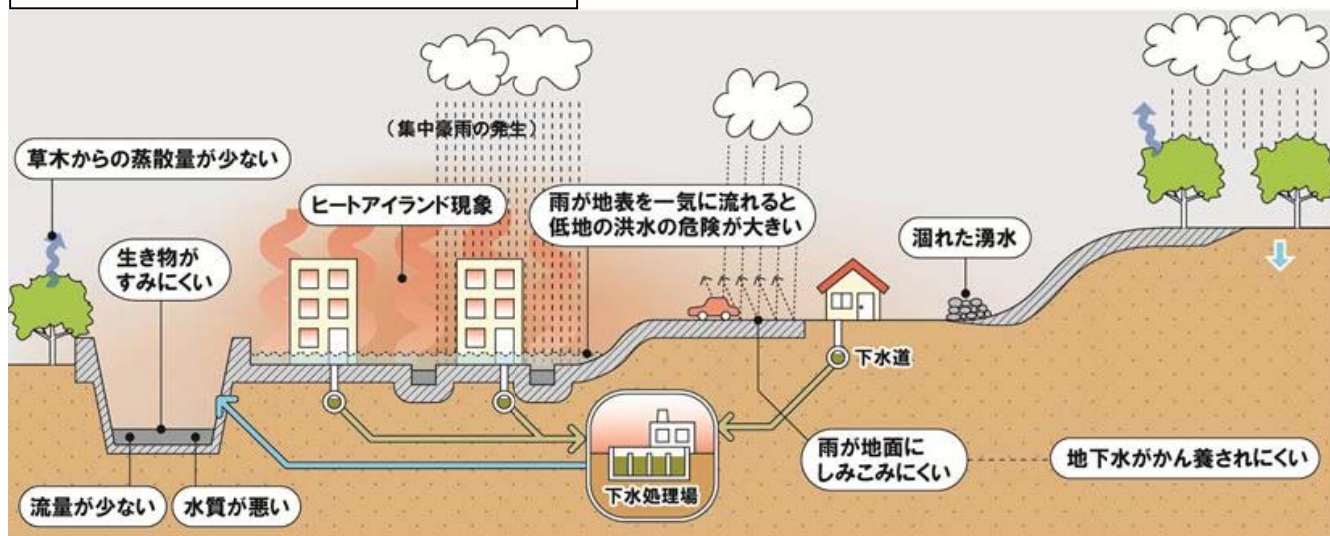
人 そして、これを実現するためには、多くの人の協力が必要です。

このことを、「水の環復活」とよんでいます。



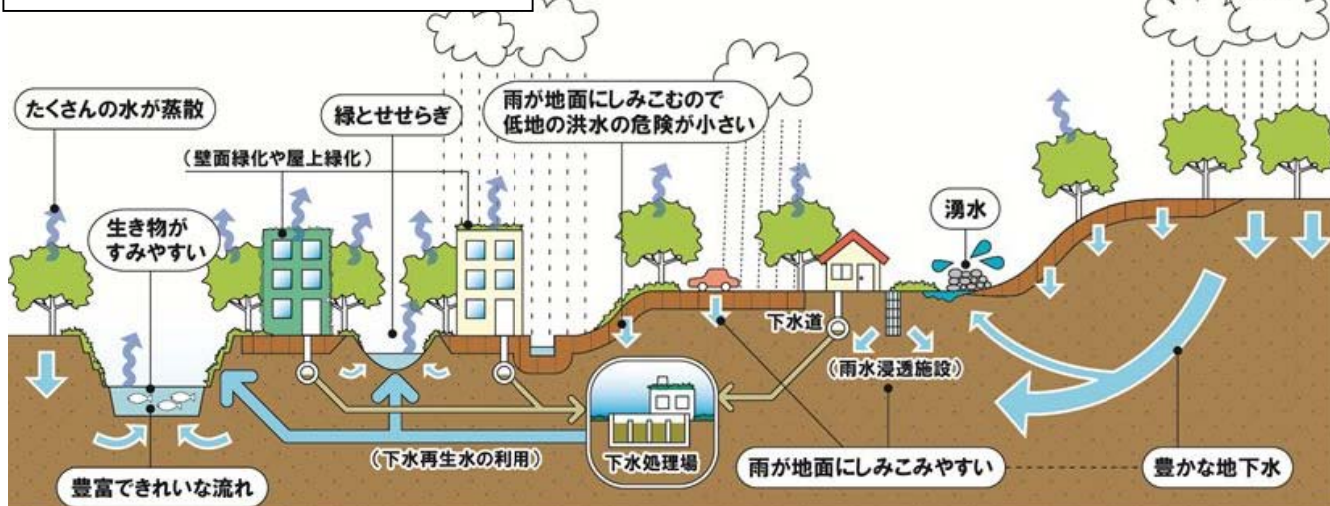
1 水の環が復活した名古屋の将来像

水循環の観点から見た名古屋の現状



戦略の推進

めざす姿（水の環が復活した将来像）

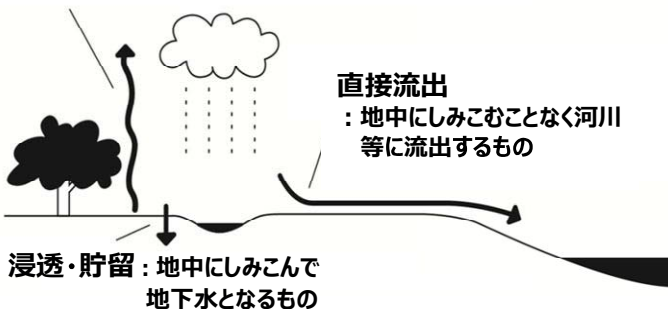


2 水収支

市域に降った雨が外へ出て行くと、蒸発散、浸透・貯留、直接流出の3つの経路にどのように分かれるかを算出し、数値で示した指標を「水収支」といいます。

雨水浸透ますや雨水タンクをはじめとする浸透・貯留施設を設置したり、緑を増やしたりするなど、「水の環復活」に向けてどれくらい取り組みを進めたかを示す指標として、「水収支」を用います。

蒸発散：水面や地表面、植物などから蒸発散するもの



第1期では、水の環復活の考え方を行政の計画に盛り込むとともに、多くの市民の方々の協力を得ながら、さまざまな取り組みを進めてきましたが、いくつか課題も見えてきました。

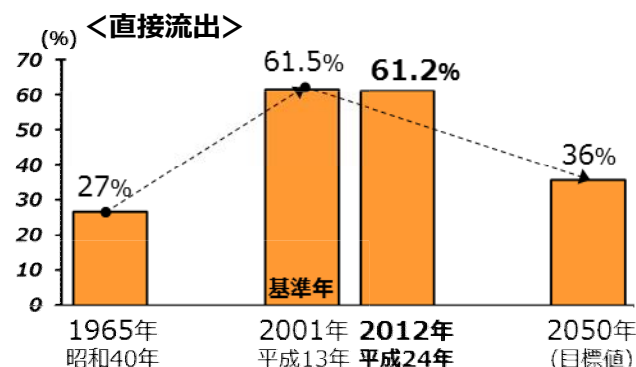
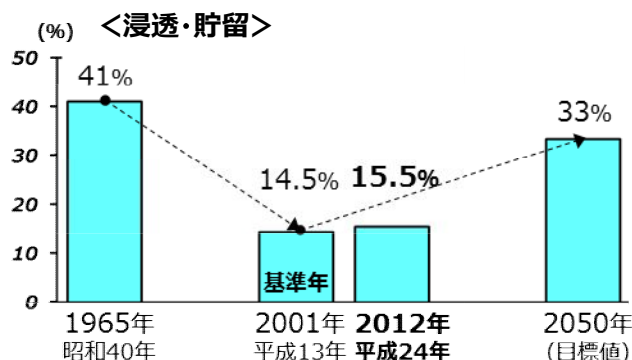
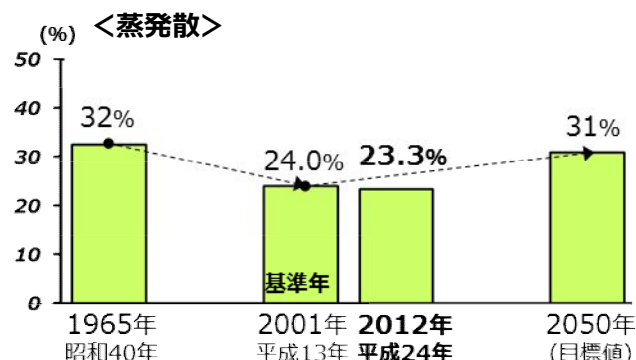
（取り組んだことの具体的な内容については、『施策編』として名古屋市公式ウェブサイトに掲載しています。）



1 2012年の水収支

2012年時点の水収支を計算した結果、緑地や農地等の減少により「蒸発散」は2001年と比較して0.7ポイント減少したものの、雨水浸透ますや透水性舗装の整備を進めたことで、「浸透・貯留」は2001年と比較して1.0ポイント増加しました。

水循環機能の回復に役立つ取り組みをより一層推進し、水収支の改善を図っていく必要があります。

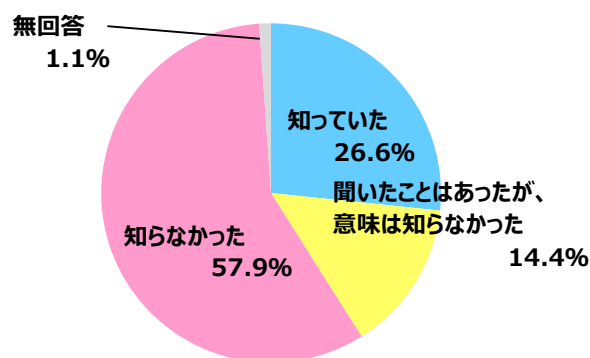


2 水循環の認知度・理解度

市民アンケート調査により、「水循環（水の環）」の認知度について調査したところ、「知っていた」と答えた人が26.6%であり、多くの人が水循環について理解しているとは言えません。

水循環について学ぶ機会を増やしていくとともに、多くの市民が水循環の問題について理解し、水の環復活を意識した行動の実践につなげていく必要があります。

Q：あなたは「水循環（水の環）」という言葉を知っていましたか。



3 第1期の課題

認知度・理解度の向上	水循環の問題を理解している市民の数が少ないことから、水循環について学ぶ機会を増やし、水循環の重要性などを市民にわかりやすく伝える工夫をしながら情報提供していく必要があります。
事業者の取り組みの促進	まずは、事業者の水循環に配慮した取り組みの現状を把握し、先進的な事例の紹介等を通じて、具体的な行動につなげていく必要があります。
水の環復活を意識して行動する人づくり	多くの市民が水循環について理解し、水の環復活を意識した行動を実践するよう、水循環機能の回復を目に見えるかたちで展開する必要があります。



1 第2期でめざす状態

第2期実行計画（2025年まで）では、名古屋市を取り巻く状況や第1期実行計画の成果をふまえて、次のように「第2期でめざす状態」を設定します。取り組みの中間的な評価を2020年に行います。

- 行政の計画等に位置づけられた水の環復活につながる施策が着実に実施され、水循環の機能がまちづくりに生かされています。
- モデル事業等の実施を通じて、水の環復活に向けた施策とその効果を目に見えるかたちで展開しています。
- 多くの市民・事業者が水循環の問題について理解し、水の環復活を意識した行動を実践しています。



2 取り組むこと

◎場所ごとでの取り組み

めざす姿を場所ごとに示したうえで、取り組んでいく内容について整理しました。

※下のイラストは、「建築物とその周囲や駐車場」の部分です。本編ではこのほかに「市内全域」「道路」「公園」「林や森」「河川・運河・海」「湿地・湧水地とため池」「農地」「広域連携」について掲載しています。



◎水の環復活を意識して行動する人づくり・場づくり

多くの市民・事業者が水循環の問題について理解し、水の環復活を意識した行動を実践している状態をめざして、以下のことに取り組んでいきます。

- 次世代を担う小中学生、高校生、大学生を対象とした普及啓発を実施します。
(出前講座や各種イベントの場を活用して、水の環復活に関する理解の促進を図ります。)
- 水循環の状況を実感し、水の環復活を意識した行動の実践につながるような、モデル事業を実施します。
- 市民、事業者、学識経験者、行政等が意見交換を行う場を設けるなど、さまざまな主体と連携して取り組むための場づくりを行います。